

## 青函トンネル

施設管理者 : 日本鉄道建設公団  
施設所在地 : 北海道松前郡福島町  
調査見学時期 : 平成9年

### 施設概要

青函トンネルの維持管理施設及び防災施設の見学を行いました。青函トンネルの維持管理業務は、入口から出口までの53.850kmのうち海底部区間24.2kmを日本鉄道建設公団の吉岡管理センターが直轄で行っています。その背景には、青函トンネルが長大かつ海底トンネルであり公共性・重要性が極めて高いので建設過程で得られた技術的ノウハウを生かして機能を保持していくという考え方があり、鉄道の運営主体である北海道旅客鉄道(株)との協議の上決まったそうです。吉岡管理センターは、次の業務を直轄で実施しています(職員5人)。

- (1) 防災システムからのデータ収集と整理分析
- (2) トンネルの変位計測
- (3) 湧水、注入材及び覆工材料分析
- (4) 測定、試験データの解析、評価

排水基地は坑内に3ヶ所あり計12台のポンプが設置されています。常時はポンプ5台が稼働し、それぞれ斜坑に敷設された配管を通して排出されています。換気は斜坑横に取り付けられた送風機により空気を送り込み、本坑内に毎秒1mの風が流れるように設定しているそうです。風の通り道には気密性を保つため遠制風門が設けられています。我々は、センターの所長さんの案内で、斜坑より人荷車により坑内に入り、火災対策施設となる定点、将来の新幹線保守基地となる横取基地(現在は海底ワールド)など、予定を1時間も超える長い時間をかけて見学させていただきました。開業以来、10年にわたって4回の大きな地震を受けながらも現在に至る、技術と管理システムに敬服の念を抱いた視察でした。(GECニュース第100号より抜粋)

